

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島中学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語、数学の平均正答率はA問題、B問題とも、全国と県の平均より低く課題がみられます。
- ・数学A問題では関数の問題の正答率が低く、原因として用語の意味の理解不足、グラフや表から情報を読み取る力の弱さがあげられます。B問題の資料の活用や確率の問題では全国、県の平均を上回っています。
- ・国語A問題では「書くこと」の正答率が低く、特に根拠を明確にして自分の意見を書く力の弱さがあげられます。B問題でも「書くこと」の正答率が低く、情報を収集し、それを整理して、書く力をつける必要があります。B問題の「読むこと」の中で、「文章の展開に即して内容を理解する」に関する問題の正答率は、全国、県の平均を上回っています。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「友達の前で自分の考えや意見をいうことは得意ですか」「将来の夢や目標をもっていますか」「学校の規則を守っていますか」について高い割合を示しています。また、「国語、数学の勉強は大切だと思いますか」「将来役に立つと思いますか」が高い割合を示しています。
- ・課題となる項目
「学校の授業時間以外の家庭学習を30分以下、まったくしない」とした生徒の割合が全国に比べてやや高くなっています。また、「家で学校の宿題や復習をしない」という生徒の割合が全国に比べて高くなっています。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・家庭学習の時間を増やし、宿題や復習をする習慣をつけさせていきます。
- ・生徒との対話を増やし、生徒理解に努めるとともに、自己肯定感を高める言葉かけを心がけます。
- ・学力の二極分化がみられる状況なので、それを踏まえたくて指導を工夫していきます。
- ・授業やその他の活動において、自分の考えの根拠を明らかにして伝え合う機会を増やしていきます。
- ・新聞記事の読み比べなどを実施し、情報を整理して文章にまとめることで、書く力を育てていきます。
- ・図書館を利用し、読書に親しむ生徒を育てます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・家庭学習を習慣化できるように、生活のリズムを整え、ゲームやスマホの使用の家庭でのルールを決めましょう。
- ・将来の夢や希望をかなえるためには何が必要か、話をする機会をもつことで、目的を持ち、学習に取り組めるようにサポートをお願いします。